

## 大都市の中の都市農業 ～川崎市高津区久末地区農産物品評会 100 周年～

【横浜川崎支部】 横浜川崎地区農政事務所 地域農政推進課



川崎市の農業は、露地野菜を中心に施設野菜、果樹、植木、花き生産の他、数は少ないものの畜産経営もなされています。販売は農協や農業者、農業者グループが経営する直売所、果樹、花きを中心とした沿道直売が盛んです。

川崎市の農地面積は平成 27 年で約 600ha で、このうち農業振興地域の黒川上、黒川東、岡上、早野地区の面積 99.7ha に対し、その他の市街化調整区域内農地 (75.5ha) と市街化区域内農地 (404.6ha) の合計面積が約 80%と高い割合を占めていることが、川崎市農業の特徴です。

このたび、久末地区農産物品評会が 100 周年を迎え、内閣総理大臣感謝状が授与されたので報告します。

このたび、久末地区農産物品評会が 100 周年を迎え、内閣総理大臣感謝状が授与されたので報告します。

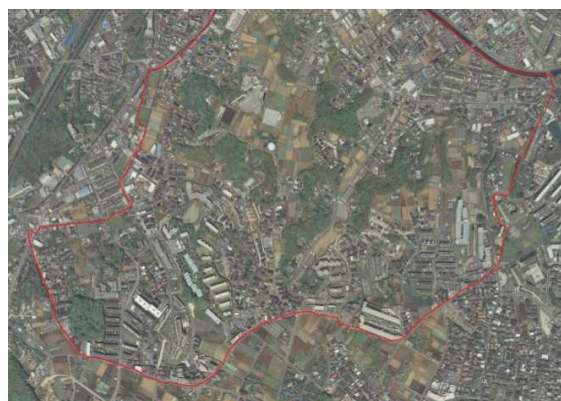
### 【地区の現況】

久末地区は川崎市のほぼ中央部に位置し南は横浜市港北区高田と接しています。地区面積は約 128ha で農地は 19.1ha、うち市街化区域内農地は 12.2ha で、約 64%と非常に高い割合になっているのが特徴です。

JA セレサ川崎各支部の加入農家数合計約 4千戸に対し、久末支部は 59 戸です。

農業振興地域ではありませんが、昔から露地野菜を中心に農業が盛んで、川崎市内では珍しく施設トマト、露地キャベツ、ブロッコリー等の市場出荷を行っています。

最近では、平成 20 年に開店した JA セレサ川崎の大型直売センター「セレサモス(麻生店)」や一昨年(平成 27 年) 10 月に開店した「セレサモス(宮前店)」への出荷者が増え、珍しい品種や品目の栽培も増えています。



航空写真(国土地理院 左：昭和 44 年、 右：平成 19 年)

## 主な農産物

- ・かながわ農林水産ブランド品:ブロッコリー、トマト、カリフラワー、ホウレンソウ
- ・その他:キャベツ、カリフラワー、コマツナ など

## 【歴史】

久末地区は昭和 30 年頃には人口 600 人足らずの純農村でしたが、昭和 30 年中頃から東京近郊の住宅地として多くの団地が建設されるなど、都市化が急速に進み平成 28 年9月の人口は 15,506 人となっています。

地区の農業は、明治以前は稲作と麦等の畑作が中心でしたが、明治初期に換金作物としてサトイモ、マクワウリ等の野菜栽培が始まり、隣接する消費地の横浜市場へ出荷されました。

その後、明治後期から大正に入り、キュウリ、ナス、トマト、カボチャ等の本格的な野菜栽培が始まりました。施設整備、共同作業、新技術の導入等の積極的取組みの結果、現在では川崎市内有数の野菜の産地になっています。

生産組合中心の実行委員会が主催している久末農産物品評会は、大正5年に始まり、当初は生産者同志の生産技術の向上を目的に行っていましたが、昭和 50 年頃から開催場所を地元久末小学校にするなど、住民に対する地域農業のPRにも重きを置くようになりました。品評会は関東大震災や第二次世界大戦中も1回も休まず開催され、出品点数もここ 30 年維持されており、平成 28 年には 100 回を迎えました。

農産物品評会出品点数の推移

回	70	75	80	85	90	95	100
年	S61	H3	H8	H13	H18	H23	H28
点数	462	501	659	558	678	492	566

## 【都市農業を持続させるために】

久末地区の農地は市街化調整区域ではあるものの、周辺は開発が進んだ市街地です。県内他地区と比較して、農地転用が進んでも不思議ではない地域で農業が続けられている理由の一つは、生産者同志の団結力と地域への貢献です。

継続して 100 回開催されてきた品評会が、地域住民との交流に貢献し、農業の発展に寄与したとして、平成 28 年 12 月3日内閣総理大臣感謝状が久末支部に授与されました。農業者が都市に寄り添うことで、地域の農業を都市住民に深く理解してもらい支えてもらう、久末地区の農業は「ともに生きる」ことで、都市農業を持続させることができることを示しています。



内閣総理大臣感謝



品評会 100 回を記念して支部生産者が作成した宝船